

使用エネ最小限 レーザー素子

東大が開発

東京大学の荒川泰彦教授、野村政宏特任助教らは、使うエネルギーが最小限ですむレーザー素子を開発した。光の粒（光子）を1個ずつ集めてレーザー光を作り出す。スーパーコンピューター並みの計算を1個の大規模集積回路（LSI）でこなす新型コンピューターの基本技術になる。

インジウム・ヒ素でできた直径20〜25ナノ（ナノは10億分の1）径、高さ2〜3ナノ径の円盤から、物理学的にこれ以上分割できない光の最小単位の光子を1個ずつ取り出し、レーザー光を発振した。

日本経済新聞2010年2月22日付13面